

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2002-315622
(P2002-315622A)

(43)公開日 平成14年10月29日(2002. 10. 29)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード(参考)
A 4 5 D 33/00	6 4 0	A 4 5 D 33/00	6 4 0 3 E 0 8 4
	6 1 5		6 1 5 D
B 6 5 D 43/16		B 6 5 D 43/16	A

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全 6 頁)

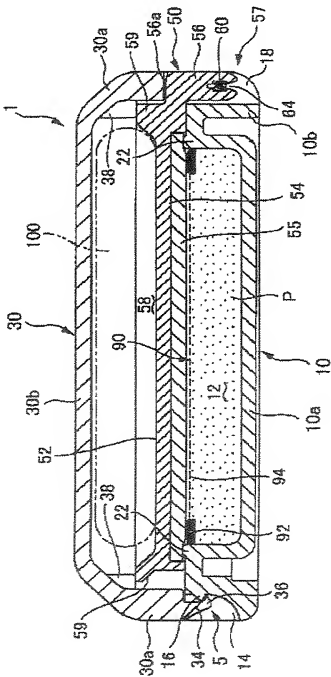
(21)出願番号	特願2001-126399(P2001-126399)	(71)出願人	000160223 吉田工業株式会社 東京都墨田区立花5丁目29番10号
(22)出願日	平成13年4月24日(2001. 4. 24)	(72)発明者	柚原 幸知 東京都墨田区立花5丁目29番10号 吉田工業株式会社内
		(74)代理人	100071283 弁理士 一色 健輔 (外3名)
		Fターム(参考)	3E084 AA05 AA14 AB09 BA03 CA03 DA03 DB13 FA06 FC13 GA06 GB06 HA02 HB03 HD01 JA01

(54)【発明の名称】 気密化粧料容器

(57)【要約】

【課題】 上面にパフの収納部を有した内蓋で容器本体のパウダー状化粧料の収納部を気密に閉止でき、かつ開閉操作性に優れた小型の多段式の気密化粧料容器を提供する。

【解決手段】 収納部12を有する容器本体10と外蓋30との後端部を蝶番3で枢着し、外蓋30と本体10との前端部に互いに係合して閉止状態を保つ係合突起16と係合片36とを設ける。本体10の収納部12周縁に当接するパッキン材55を下面に有して収納部12を気密に閉止するとともに、上面にパフ100の収納凹所58を有する内蓋50を、本体10に対して蝶番ピン60を介して開閉自在に取り付ける。内蓋50の閉止状態において内蓋50と本体10との近接離間移動を許容すべく、蝶番ピン60は内蓋50あるいは本体10のいずれか一方に形成した溝に沿って上下動可能に係合させる。外蓋30の内面には、外蓋30を閉止したときに内蓋50に当接してパッキン材55を弾性変形させつつ下方に押し下げて、収納部12を気密に保持させる当接片38を設ける。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 内部に粘度の高い化粧料の収納部が形成された容器本体と、
該容器本体の後端部にヒンジを介して開閉自在に設けられた外蓋と、
該外蓋で容器本体を閉止するためにこれら両者の前端部に設けられたフック手段と、
該容器本体の収納部の周縁部に当接するパッキン材を下面に有して該収納部を気密に閉止するとともに上面にパフの収納凹所が形成された内蓋とを備え、
該内蓋は該容器本体に対して蝶番ピンを介して開閉自在に取り付けられ、該蝶番ピンは該内蓋の閉止状態において該内蓋と該容器本体との近接離間移動を許容すべく、該内蓋あるいは該容器本体のいずれか一方に形成された溝に沿って上下動可能に係合されており、
該外蓋の内面には、該外蓋を閉止したときに該内蓋に当接して該内蓋を下方に押し下げる当接片が設けられていることを特徴とする気密化粧料容器。

【請求項 2】 前記蝶番ピンが前記容器本体側に固設されており、前記内蓋側に上下動を許容する前記溝が設けられていることを特徴とする請求項 1 記載の気密化粧料容器。

【請求項 3】 前記蝶番ピンが前記ヒンジに並設されて容器本体の後端部に配置されていることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の気密化粧料容器。

【請求項 4】 前記蝶番ピンが前記ヒンジに略直交されて容器本体の側端部に配置されていることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の気密化粧料容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、容器本体に形成された化粧料収納部を閉止するための内蓋を有した気密化粧料容器に係わり、特に内蓋上面にパフの収容部を備えつつ化粧料収納部を簡易に気密状態に閉止し得る、開閉操作性に優れた多段式の気密化粧料容器に関する。

【0002】

【従来の技術】従来より、パウダー状化粧料とパフとを上下二段に収納するパウダーコンパクト容器において、容器本体の化粧料収納部を閉止する内蓋を当該容器本体に開閉自在に蝶着し、化粧料収納部の周縁部と当該収納部を閉止する内蓋との接触部にパッキンを設けて気密にシールし、当該内蓋の上面にパフの収容部を形成したものがあ

る。
【0003】しかしながら、このような中蓋の閉止構造のパウダーコンパクト容器では、中蓋が蝶番ピン周りに回転しての化粧料収納部を開閉するので、閉止時にパッキンを均一に押圧できず、接触不良による隙間が生じてしまうのを避け難く、パウダー状化粧料皿が漏れてコンパクト容器内を汚してしまうのを防止できなかった。

【0004】また、上記問題点を解消し得るものとし

て、実公平 3-50809 号公報にて開示された二段式気密化粧料容器が提案されている。即ち、この二段式気密化粧料容器は、化粧料収納部の周縁部とこの化粧料収納部を閉止すべくその上部に配置される内蓋との接触面に、互いに係合して気密性を保持する環状突壁と環状溝とを設け、内蓋は化粧料収納部を形成する本体枠に蝶番ピンを介して開閉自在に取り付けると共に、当該内蓋の蝶番ピン軸受部には、その閉止時に上記環状突壁と環状溝との嵌合を容易になさしめるために当該内蓋の上下動を許容するスライド溝を設けた構成となっている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかるに、かかる従来の二段式気密化粧料容器の構成にあつては、環状突壁と環状溝とを嵌合させて機密性を保持させる構造となしているので、閉止時及び開放時には上記嵌合に係脱させるために大きな操作力が必要になってしまう。また、環状突片と環状溝とを嵌合可能に高精度に形成せねばならないので、成形コストも増大してしまうと云った課題がある。

【0006】本発明はかかる従来の課題に鑑みてなされたものであり、その目的は、内蓋の開閉操作が楽に行える廉価な二段式の気密化粧料容器を提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】かかる目的を達成するために本発明の気密化粧料容器は、内部に粘度の高い化粧料の収納部が形成された容器本体と、該容器本体の後端部にヒンジを介して開閉自在に設けられた外蓋と、該外蓋で容器本体を閉止するためにこれら両者の前端部に設けられたフック手段と、該容器本体の収納部の周縁部に当接するパッキン材を下面に有して該収納部を気密に閉止するとともに上面にパフの収納凹所が形成された内蓋とを備え、該内蓋は該容器本体に対して蝶番ピンを介して開閉自在に取り付けられ、該蝶番ピンは該内蓋の閉止状態において該内蓋と該容器本体との近接離間移動を許容すべく、該内蓋あるいは該容器本体のいずれか一方に形成された溝に沿って上下動可能に係合されており、該外蓋の内面には、該外蓋を閉止したときに該内蓋に当接して該内蓋を下方に押し下げる当接片が設けられていることを特徴とする。

【0008】ここで、前記蝶番ピンは前記容器本体側に固設し、前記内蓋側に上下動を許容する前記溝を設ける構成とし得る。

【0009】また、前記蝶番ピンは前記ヒンジに並設させて容器本体の後端部に配置する構成となし得る。

【0010】あるいは、前記蝶番ピンは前記ヒンジに略直交させて容器本体の側端部に配置する構成となし得る。

【0011】

【発明の実施の形態】以下に、本発明に係る気密化粧料

容器の実施形態について添付図面を参照しつつ詳細に説明する。図1から図5に示すように、本実施形態の気密化粧料容器1は、いずれも樹脂製でなる容器本体10と外蓋30と内蓋50とを主要部品として構成されている。

【0012】容器本体10は、底部10aとこの底部10aの周縁から立ち上がる周側壁部10bとからなり、平面視で正方形状をなして内部にパウダー状あるいは粘度の高い化粧料Pが充填される化粧料収納部12が形成され、この化粧料収納部12の開口周縁に沿ってその周側壁部10b上面には上方に突出する環状突条22が一体形成されている。なお、本実施形態では、化粧料収納部12にはパウダー状化粧料Pを収納した例を示している。

【0013】また、容器本体10の前端側中央には、前方及び上方に向かって開放された凹部14が設けられると共に、凹部14の前側壁面には、前方に向かって係合突起16が設けられる一方、後端側にはその中央に後方及び上下方向に開放された第1凹部18が設けられ、この第1凹部には左右の対面する縦壁間に掛け渡されて蝶番ピン60が一体形成されて固設されている。さらに、この第1凹部18の両側方には後方及び上方に向かって開放された第2凹部20が左右一対で設けられており、容器本体10の周側壁部10bにおける左右両側壁部分の後端部には、上記各第2凹部20内に金属製のヒンジピン24を挿通固定するための軸孔26が形成されている。

【0014】また、化粧料収納部12には、その内周面に摺動自在に嵌合されて上記パウダー状化粧料Pの表面に接触して載置された網皿90が設けられている。この網皿90は矩形環状のフレーム92と、このフレーム92に一体に取り付けられて張設された網94とからなり、フレーム92の外周面が化粧料収納部12の内周面に摺接して、上下に移動可能となっている。

【0015】内蓋50は、容器本体10の周側壁部10aの上面内周部に沿って当接して化粧料収納部12を閉止する平面視矩形の蓋体部52と、この蓋体部52の後端部から後方に延びて容器本体10の第1凹部18に入り込んで蝶番57を形成する突部56とからなり、この突部56には前記容器本体10の第1凹部18に設けられた蝶番ピン60に係合する係合溝62が、当該内蓋50の上下動を許容すべく上下方向に若干長く形成されているとともに、この係合溝62内に蝶番ピン60を嵌着させるための割溝64が連続して下端に形成されている。また、この突部56の後端上面56aは後方がなだらかに下がる傾斜面あるいは湾曲面に形成されていて、内蓋50に対して後述する外蓋30を相対回転させる際の干渉が防止されるようになっている。

【0016】上記蓋体部52の下面には、化粧料収納部12の周縁に沿って容器本体10に形成された環状突条

22を内部に収納するように、当該環状突条22の外周部に沿って矩形の凹部54が凹設形成されており、この凹部54には当該内蓋50の閉止時に上記環状突条22に圧接して弾性変形し、化粧料収納部12の気密性を保持するスポンジや軟質ゴム等でなるパッキン材55が貼着されている。また、蓋体部52の上面にはパフ100を收容するための収納凹所58が形成されており、この収納凹所58を形成する周側壁59は外方に拡開するように傾斜して形成されている。

【0017】外蓋30は、上記容器本体10と上下に重なり、矩形の略同型状の側壁部30aと内面にミラー（図示省略）が貼着された天部30bとから構成されている。外蓋30の後端部には、下方に延びて容器本体10に形成された一対の第2凹部20（20a、20b）にそれぞれ入り込んでヒンジ3を形成する突部32a、32bが左右一対で設けられ、当該各突部32a、32bに形成された軸孔33に上記ヒンジピン24が挿通されて、容器本体10に対して回動自在に枢着されるようになっている。

【0018】また、外蓋30の一対の突部32a、32b間には、上方に向けて矩形に切り欠かれて凹所35が形成され、この凹所35には上記内蓋50の蝶番部をなす突部56の上側部が部分的に入り込むようになっている。

【0019】更に、外蓋30の内面には、これを閉止したときに内蓋50に当接して当該内蓋50を下方に押し下げる当接片38が、側壁部30aの内壁面に沿って適宜間隔をあけて複数設けられており、これらの当接片38は内蓋30の周側壁59上面に当接するようになっている。ここで、当該当接片38は、外蓋30の閉止時における内蓋50の下方への移動を円滑に行わせるために、内蓋50の蓋体部52に対して、その蝶番57を構成する突部56が設けられた部位と当該突部56が設けられた部位に対峙する開閉端部位との少なくとも2カ所に当接して押圧するようにするのが望ましく、よって本第1実施形態では外蓋30の後端部側と前端部側とのそれぞれ対応する所定位置に少なくとも2カ所に設けられている。

【0020】一方、外蓋30の前端側には、容記本体10の凹部14に入り込んで係合突起16と共にフック手段5を構成する係合部34が設けられている。この係合部34の後方側の面には、係合突起16と係脱自在に係合片36が設けられている。

【0021】そして、これらの部品は、以下のように組み合わせられて気密化粧料容器1に形成される。即ち、先ず、容器本体10の後端の第1凹部18に内蓋50後端に形成された突部56を入り込ませ、その係合溝62に割溝64を通じて蝶番ピン60を押し込んで嵌着させて蝶番3を構成し、内蓋50と容器本体10とを相互に回動自在に蝶着する。ここで、係合溝62は上下方向に若

10

20

30

40

50

干長く形成されているため、内蓋50は容器本体10の化粧料収納部12を閉じた閉止状態で上下方向に移動可能になっている。

【0022】次ぎに、容器本体10の後端の一对の第2凹部20(20a, 20b)に、外蓋30後端に形成されている一对の突部32(32a, 32b)を入り込ませ、各突部32a, 32bの軸孔33と容器本体10両側部後端の軸孔26とにヒンジピン24を挿通させてヒンジ57を構成し、容器本体10と外蓋30とを相互に回動自在に枢着する。

【0023】以上のように構成された気密化粧料容器1にあっては、図3に示すように、容器本体10に対して外蓋30が開放状態にあり、内蓋50が閉止状態にあるときには、内蓋50の蓋体部52下面に貼着したパッキン材55が化粧料収納部12の周縁に突出する環状突条22に当接し、当該パッキン材55の弾性力により内蓋50は上方に浮き上がった状態となっていて、蝶番57を構成する突部56の係合溝62内において蝶番ピン60はその下端に位置している。

【0024】この状態から、内蓋50上面の収納凹所58にパウダー状化粧料Pとパウ100とを上下二段に収納する構成をとっていても、外蓋30並びに内蓋50の開閉操作力を可及的に軽く維持したまま、化粧料収納部12を気密に開閉させることができ、しかも外蓋30を閉じるだけで自動的に内蓋50を押圧して密封状態にし得るので、開閉操作性に優れる。

【0025】そして、外蓋30を完全に閉じると、フック手段5をなす容器本体10の凹部14の係合突起16と外蓋30の係合片36とが係合して、容器本体10と外蓋30とが閉止状態に保持され、内蓋50が環状突条22に圧接密着して化粧料収納部を気密に閉止した状態となる。この際、内蓋50は外蓋30周側壁部30aの内壁面に沿って適宜間隔をあけて複数設けられた当接片38により蓋体部52が下方に押さえ込まれるから、下面のパッキン材55は環状突条22に対してその全周に亘って均一に隙間なく圧接密着されて化粧料収納部12を気密に閉止する。このため、気密化粧料容器1を閉止した携帯中等に、パウダー状化粧料Pが化粧料収納部12から外側に漏れ出て、ハンドバック内などを汚すことがない。

【0026】また、外蓋30を閉じて内蓋50を密封させるにあたっては、パッキン材55を弾性変形させて押し潰すための力のみを多く必要とするだけであるから、その閉止時の操作力はごく軽くて済み、しかも外蓋30

を閉じるだけで自動的に内蓋50を密封状態にし得る。

【0027】一方、外蓋30を開放させるにあたっては、完全に閉じられた状態の外蓋30の前端部を上方にこじ開けてフック手段5の係合を外して開放していただくだけで、内蓋50はパッキン材55の弾性力により上方に押し上げられて移動し、前述の図3の状態になる。よって、外蓋30の開放時の操作力は増大されることはない。また、内蓋50をさらに開放するにあっても、当該内蓋50は下面のパッキン材55が環状突条22に当接して、これに載置されているに過ぎない状態となっているから、極めて軽い操作力で上方に開放させることができる。

【0028】従って、この気密化粧料容器1にあっては、容器本体10と内蓋50と外蓋30とを上下に重ねてパウダー状化粧料Pとパウ100とを上下二段に収納する構成をとっていても、外蓋30並びに内蓋50の開閉操作力を可及的に軽く維持したまま、化粧料収納部12を気密に開閉させることができ、しかも外蓋30を閉じるだけで自動的に内蓋50を押圧して密封状態にし得るので、開閉操作性に優れる。

【0029】図6は本発明に係る気密化粧料容器の第2実施形態を示す分解斜視図である。ここで、当該第2実施形態の気密化粧料容器1Aにあっては、その主要構成は前述の第1実施形態と共通し、その相違点は外蓋と内蓋とが異なる方向に回動されて開閉される構成となっている点だけである。よって、以下には共通する部分には同一の符号を付してその詳しい説明は省略し、相違する点に付いてのみ説明する。

【0030】即ち、この第2実施形態では、内蓋50と容器本体10との蝶番57が容器本体10の側端部に配置されており、蝶番57を構成する内蓋50の突部56が入り込む第1凹部18は容器本体10の前方から見て右側の周側壁10a部分の中央に設けられていて、この第1凹部18の対面する縦壁間に掛け渡されて一体的に固設される蝶番ピン60は、容器本体10の後端部に形成された第2凹部20に設けられる外蓋30川のヒンジピン24と略直角をなして配置されている。ここで、当該第2実施形態では、第2凹部20は2つに分割されずに容器本体10の後端部中央に単一に形成されていて、これに対応して外蓋30の突部32も後端部の中央に単一構成で設けられている。

【0031】また、外蓋30に形成する当接片38は、閉止時における内蓋50の下方への移動を円滑に行わせるために、内蓋50の蓋体部52に対してその蝶番57を構成する突部56が設けられた部位と当該突部56が設けられた部位に対峙する開閉端部位との少なくとも2カ所に対応されて、外蓋30の開閉方向両側に位置する側壁部30aの内周面にそれぞれ設けられている。

【0032】従って、当該第2実施形態の気密化粧料容

器1Aでは、後端部側のヒンジピン24を回動中心として前後方向に開閉する外蓋30に対し、内蓋50は右側の側壁部10aの蝶番ピン60を回動中心にして左右に開閉することになり、よって内蓋50を開いた状態でも、当該内蓋50が外蓋30の内面に貼着されたミラー（図示省略）を隠してしまうことを防止できる。

【0033】

【発明の効果】以上に説明したように本発明によれば、容器本体と内蓋と外蓋とを上下に重ねて化粧料とパフとを上下二段に収納し、外形寸法の小型化を図った気密化粧料容器であっても、外蓋並びに内蓋の開閉操作力を可及的に軽く維持したまま、化粧料収納部を気密に開閉させることができ、しかも外蓋を閉じるだけで自動的に内蓋を密封状態にし得て、優れた開閉操作性が得られる。

【0034】また、外蓋と内蓋とを異なる方向に回動して開閉させるようにすることで、内蓋を開いた状態でも、当該内蓋が外蓋の内面に貼着されたミラーを隠してしまうことを防止できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る気密化粧料容器の第1実施形態を示す分解斜視図である。

【図2】図1の気密化粧料容器の閉止時の側断面図である。

【図3】外蓋を開放させて内蓋を閉じた状態の要部を示す内蓋蝶番部の側断面図である。

【図4】外蓋と内蓋とを共に閉じた状態の要部を示す内*

* 蓋蝶番部の側断面図である。

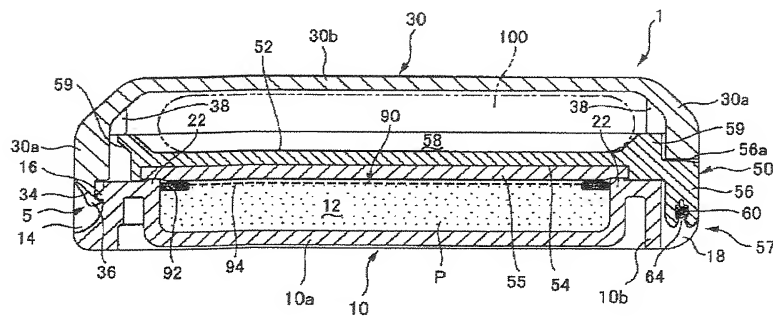
【図5】外蓋と内蓋とを共に閉じた状態の要部を示す外蓋ヒンジ部の側断面図である。

【図6】本発明に係る気密化粧料容器の第2実施形態を示す分解斜視図である。

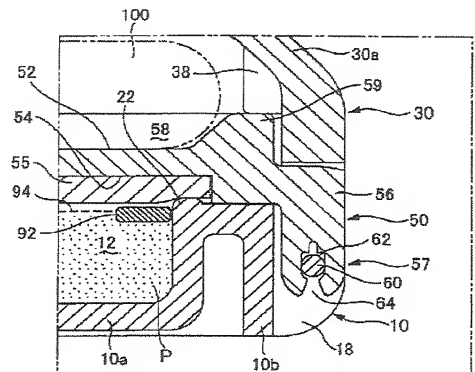
【符号の説明】

1, 1A	気密化粧料容器	3	ヒンジ
5	フック手段	10	容器本体
10a	周側壁部	10b	底部
12	収納部	14	凹部
18	第1凹部	20	第2凹部
22	環状突条	24	ヒンジピン
30	外蓋	30a	側壁部
30b	天部	32 (32a, 32b)	突部
50	内蓋	52	蓋体部
54	凹部 (パッキン材用)	55	パッキン
56	突部	57	蝶番
58	収納凹所	60	蝶番ピン
62	係合溝	64	割溝
90	網皿	92	フレーム
94	網	100	パフ
P	パウダー化粧料		

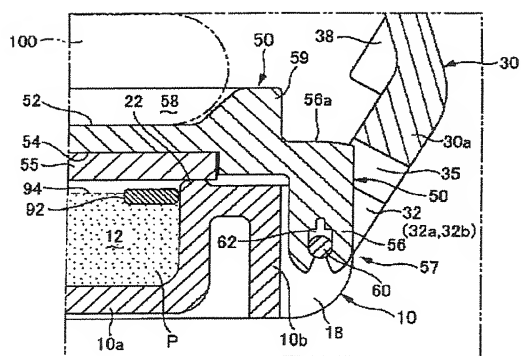
【図2】



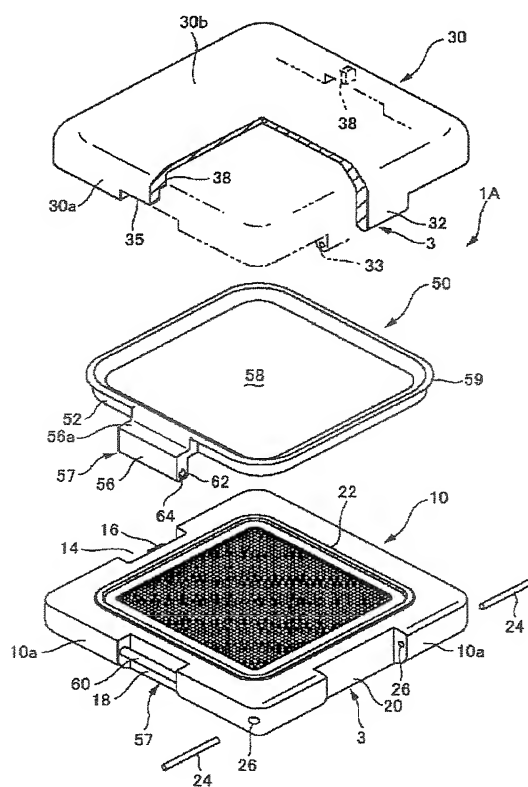
【図4】



【図 3】



【図 6】



【图 5】

